

入門Q & A

Q=相撲経験がなくても大丈夫?

A=まったく心配ありません。親方も経験はありませんでした。若い時は適応力も吸収力も高く、むしろ基礎から順を追って指導を受けた方が成長が早いからです。入門後は他の部屋の新弟子と一緒に半年間、相撲協会の教習所に通い、実技だけでなく相撲の歴史なども学びます。

Q=入門する時の支度は?

A=衣食住の心配はありませんから、体一つ、普段着で来てください。もちろん、まわしも部屋で用意します。相撲界では着物で過ごす時間が多くなりますが、着物の着方もたたみ方も教えてもらえます。

Q=給料は?

A=月給をもらえるのは十両になってからですが、幕下以下も地位に応じて手当が出ます。相撲協会員は社会保険、厚生年金にも加入する仕組みになっています。

Q=どんな生活ですか?

A=本場所の取組がない日の基本的な生活は、朝から稽古をして朝昼を兼ねた食事。ちゃんこ鍋は力士の栄養源で、毎日食べても飽きないおいしさです。その後は夕食まで片付けや洗濯といった部屋の用事を済ませ、昼寝などをして過ごします。身の回りのことを覚えるのも大事な仕事なのです。3、7、11月の本場所はそれぞれ大阪、名古屋、福岡で行われるので、場所前と合わせて1カ月ほど皆で現地に滞在することになります。



十年ほど前から新潟県で米作りに取り組んでいて、稲の体取りなんでも、稲の難さ自然の恵みを感じながら食べるの、格別。

芝田山康プロフィール

1962 (昭和 37) 年 10 月 9 日、北海道河西郡芽室町生まれ。中学時代に柔道の北海道大会で個人優勝し、高校柔道部から誘われたが、大相撲の大関魁傑の内弟子として当時の花籠部屋に入門。その後、魁傑の引退、独立に伴って放駒部屋へ移った。

82 年春場所、19 歳で新十両、83 年春場所、20 歳で新入幕。同年九州場所で北の湖、千代の富士、隆の里の 3 横綱を倒して殊勲賞。84 年春場所では 3 横綱 3 大関を破った。85 年秋場所後、大関に昇進。87 年夏場所、15 戦全勝で初優勝を果たすと、秋場所後に大相撲 62 人目の横綱に昇進した。

200 キロを超える体格を生かし、右四つで寄る相撲は迫力十分で 88 年春場所、逆転で 2 度目の優勝。同年九州場所千秋楽では千代の富士の連勝を 53 で止めた。その後はけがなどで体調が整わない場所が多く、91 年名古屋場所で無念の引退をしたが、最後まで真剣勝負を貫き通した。

引退後、放駒部屋で若手を指導した後、99 年 6 月に芝田山部屋創設。相撲協会の役職では監察委員や審判委員を務め、現在は巡業部で勧進元との交渉などに携わっている。2011 年 2 月に表面化した八百長問題では、大相撲新生委員会の委員に任命され、再発防止策の立案などに尽力した。

著書に「負けるも勝ち」(ダイヤモンド社)があるほか、スイーツ評論でもテレビなどに出演。「大乃国の全国スイーツ巡業」「大乃国の全国スイーツ巡業Ⅱ」(日本経済新聞社)を出版している。



夏には東京を離れて元宿も。稽古を終えて地元のちびっかたちに相撲の手ほどき。



芝田山部屋は 2011 年名古屋場所時点で力士 6 人、呼び出し 1 人の所帯です。所在地は東京・京王井の頭線高井戸駅から徒歩 3 分。渋谷から 20 分の所にあります。

地上 3 階、地下 1 階の建物で力士たちと親方が一緒に生活してけいこに励んでいます。インターネットを使える方は、ホームページでも部屋の様子をご覧いただけます。

看板の文字は日本画家で文化勲章受章者の片岡球子先生に書いていただきました。

☆ 連絡先 ☆

〒168-007 東京都杉並区
高井戸東 2-26-9

電話 03-3335-0055

ホームページ

<http://shibatayama.fc2web.com/>